

公益社団法人 日本給食サービス協会会長賞

『私とお兄ちゃんの給食』

群馬県館林市立第二小学校 四年 武藤 美蘭

今日、お兄ちゃんは、どんな給食を食べているのだろう。私は給食の時間に、そう考
えることがふえました。四月からお兄ちゃんが中学生になり、小学校の給食をいっしょ
に食べることがなくなったからです。お兄ちゃんが中学に入学してすぐのころ、私は一
人で小学校まで登校するのが、少しさみしく思いました。時々ケンカをすることもあり
ましたが、やっぱりお兄ちゃんといっしょに歩く通学路は、楽しかったです。

私のお父さんとお母さんは働いています。朝ごはんは、みんなばらばらの時間に食べ
ます。私が朝ごはんを食べるころ、お母さんはお弁当のじゅんびや片付け、そしてお父
さんは、会社へ行きます。ですので、家族そろってごはんを食べられるのは、夜ごは
んの時間です。わたしは夜ごはんの時間が大好きです。夜ごはんの時間は、家族で色々
話したり、お兄ちゃんと給食の時間に放送された曲や、おもしろかった給食の話によ
くしています。でも、お兄ちゃんが中学生になってしまい、別々のこんだての給食を食
べているので、その話しもうできないと思っていました。

ある日の夜ごはんの時間、お兄ちゃんが
「今日の給食は、大好きなわかどりのマリネだった。そらは、どんな給食だったの。」
と聞かれました。私はその日、大好きなカレーライスでした。そのことを話すと、
「カレーライス、おいしいよな。おれもカレーライス大好きだよ。」

その言葉を聞いて、私はうれしく思うと同時に、心がふわっとまいあがるような気持ち
になりました。別々のこんだての給食をたべていても、お兄ちゃんは、お兄ちゃんの大
好きな給食、私は、私の大好きな給食を食べていたのだと知りました。同じこんだての
給食ではなくても、大好きな給食を食べているうれしい気持ちは、同じなのだと思いま
した。それから、夜ごはんの時間に、今日はおたがいどんな給食を食べたのかを話
すようになりました。夜ごはんの時間が、もっと好きになりました。

私とお兄ちゃんは、三学年はなれています。いっしょに中学校へ登校することはあり
ません。私が中学生になるころ、お兄ちゃんは高校生になります。同じ日に同じこんだ
ての給食を食べることはないかもしれないけれど、私は、給食の時間が待ち遠しです。

今日、お兄ちゃんはどんな給食を食べているのだろう。家に帰ったら、家族そろった
夜ごはんの時間に、また、たくさん給食の話をしたいです。